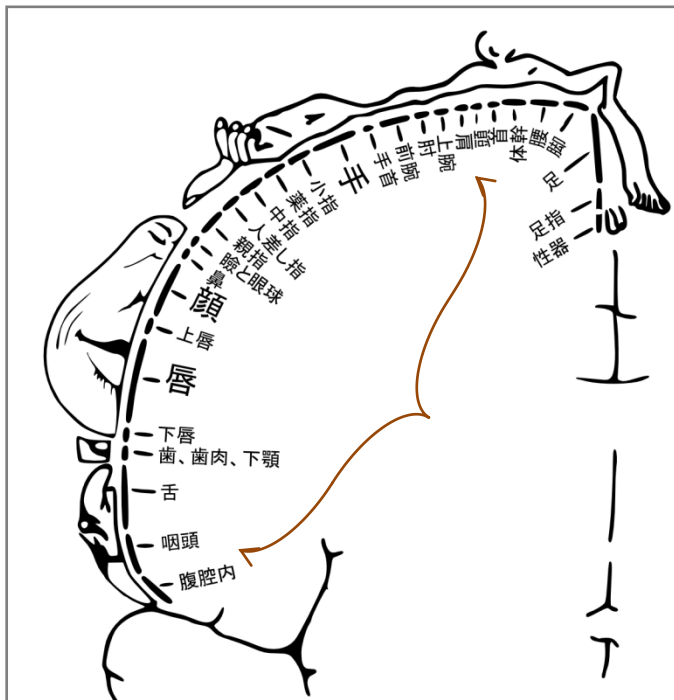


## ✚ ご挨拶



春の知らせを運ぶ桜前線がいよいよ動き出しました。春草の勢いよく萌え出る姿にも、生命の営みを強く感じます。3月の異名に「夢見月」とあります。始まりの予感や期待、旅立ちなど様々な感情が呼び起こされるのですが、これからも「一つのことに打ち込み、究めること」を貫いていきたいと思います。

## ✚ 活かし、活かされて、生きる！



ご存知の方も多いかもしれませんが、これは「ペンフィールドの地図」と呼ばれる有名な図です。

人体の各部分の機能が、脳でどれくらいの領域を示しているかを表しています。

これを見ると、胸や背中・お腹など身体の中で表面積が大きい部位であっても、脳内の範囲が狭いことが分かります。

一方で、口周りや手は

表面積が小さいにもかかわらず、脳に占める範囲が極めて大きい(左図:矢印部)。つまり、感覚が「繊細で鋭い」ということがいえるのです。

摂食・嚥下(えんげ)とは、食べ物を「認識し」・「口に入れ」・「噛んで」・「飲み込む」までの一連の動作のことを言います。食べ物を目で見えて「大きさや

硬さ」を推測(視覚)し、匂いを感じながら(嗅覚)、箸で取り分け口に入れ、食物が口から飛び出さないよう上下の唇を閉じながら噛む(触覚)。噛んだ時の音を聞き(聴覚)、舌で味わいながら(味覚)飲み込む。このように食事は、人間の五感全てを刺激しています。いかに口周りや手の感覚が、脳に大きな影響を与えているか、お解りいただけたと思います。

「生きるチカラ」の源泉は、やはり「よく噛むこと・噛めること」にあつて、これが認知症予防につながるものと信じます。「最後まで自分らしくありたい！」誰もが願うこの想いを叶えるには、自分に備わった能力を活かしきることが必要なのではないのでしょうか。

最近特に、難しい「入れ歯」の症例の患者さんにお会いすることが多くなりました。皆さん総じて「あの時こうすれば良かった」という後悔を口にされることはあっても、「今を、これからを楽しむ」との気概に満ちて通院していただいています。そして私自身も、患者さんに「活かされている」のだと感謝申し上げます。お互いの想いが、入れ歯を通じて、「希望」という名の未来を紡いでいます。いつまでも、あなたらしく在るために・・・。

## ✚ お知らせ



～光陰矢の如し～ 2ヵ月ごとに発行の「かわら版」も30号を迎えました。これも皆様からの温かい励ましのお言葉があつてこそと、心から御礼申し上げます。このたび諸事情により「かわら版」を季刊(年4回:1月・4月・7月・10月)発行に変更させていただきましたことになりました。春夏秋冬の折々に、これからは色々な話題を取り上げたいと存じます。次号は夏:7月下旬の発行予定です。尚、「トリートメントコーディネーター'Sブログ」(岩井歯科ホームページ掲載中)と「フェイスブックページ」は、今まで通り週1回の更新です。どうぞよろしくお願い致します。